

第4回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2015年12月16日（水）14時～16時
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、服部委員、松下委員、横山委員、吉川委員
＜社内委員＞勝野社長、増田副社長、阪口副社長、松原副社長、大野副社長
（原子力部長、経営戦略本部部長、広報部長、経営考査室長等同席）

4. 議事要旨

「原子力コミュニケーションの取り組み」、「安全性向上に係るリスクマネジメント強化の取り組み状況」「2015年度上半期監査結果」「浜岡原子力発電所の核セキュリティについて」を当社より説明。多岐に渡る議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

（1）原子力コミュニケーションの取り組み

- 今は、福島事故直後の「原子力は危険・怖い」という不安に加えて、「原子力がなくても問題ない」という意識が強くなってきている。原子力に関する理解を得るハードルが一つ高くなっていることを認識すべき。
- 原子力に関する理解を得ていくためには、「今あるゴミ（高レベル放射性廃棄物）をどうするのか」ということも理解を得ていく必要がある。これは私たち住民側も意識して知識を得ていくべきことかもしれない。
- 物事に100%、絶対、ということはない。安全においても同じ。私は、安全の定義を「どんなことがあってもリスクを許容範囲に維持している状態」と考えている。この考え方で一般の方にもご理解いただくようにしてはどうか。
- 推進、中立、慎重、それぞれの立場の人が参加して議論をする場合は、理解を深めるうえで有用。本年4月から7月にかけて開催された、電気新聞主催の「電力・原子力・エネルギー：静岡ステークホルダー勉強会」に参加した際に、「いろいろな意見を聞いて、気づきを得て、理解の幅が広がる」ということが実際に起きていると感じた。
- 「広聴」が重要。事業者はどうしても「説明したい」気持ちがあると思うが、まずは疑問、不安、関心等を「聴くこと」を優先すべき。
- 燃料供給に支障をきたし、火力の停止により安定供給が損なわれるという「原子力を使わない場合のリスク」は、一般の方からすると、生活に密着しておらず、理解を得るのが難しいのではないかと。電気は足りているという感覚がある中で、「原子力を使わない場合のリスクがあるので原子力を使っても良い」ということにはなかなかならないのではないかと。
- 地域住民との対話については、回数ばかりが強調されがちである。中身の工夫に取り組んでいることは承知しているが、今後も回数だけで議論されないように努めてほしい。また、訪問時に、訪問した回数を実績として残すことだけが中電の目的と誤解を受けることのないよう、さまざまな取り組みを含め、伝える努力を続けてほしい。
- ターゲットに合わせて話し方を工夫するなど努力していると思うが、何らかの指標や分析方法を取り入れるなどして、労力と効果を結び付けて取り組んでほしい。

- リスクコミュニケーションにおいて、受け手（一般人）は送り手（専門家）から知識をもらおうと同時に、受け手は、送り手のメッセージにどういう感情が乗っているのかを受け止めている。送り手はその受け止めを感じ取るということが、リスクコミュニケーションを成立させるうえで、大事な考え方となる。
- リスクコミュニケーションに携わる人材については、知識はもちろん重要だが、実直である、誠実である、といった人間性が第一である。これは育成ではなかなか身につかない。「この人は本当のことを言っている。信頼できる」という人が適任である。
- 原子力発電所がないことによるリスクについて、電力会社の発信のみでは、一般の人からするとどうしても、疑念の気持ちがぬぐえない。中立的な第三者にも適切に発信してもらうことが必要ではないか。
- スイッチを入れるとすぐ点く電気は、当たり前にあるもので、対価の支払いにも気づきにくい。したがって、電力会社の存在は見えにくく、そのリスクも見えない。原子力発電所がないリスクをきちんと見せること、電力会社を具体的にきちんと見せることが大切。火力発電所や電気のこと等、もっと一般の方に近いところから始め、見えるように説明する努力をすべき。

（２）安全性向上に係るリスクマネジメント強化の取り組み状況

- 安全対策で永遠の課題はヒューマンエラー対策であり、一番のポイントは、基本・確認の徹底である。
- 基本・確認の徹底において重要なポイントは3つある。
 - 現場のリーダー自身が、多少効率が悪くても基本をきちんとやる、ちょっとしつこいと言われるくらい確認をする。
 - 作業員・部下は、他人が見ていても見ていなくてもコツコツと基本をやる。リーダーはそれを見つけ褒める、人事で評価する。
 - 基本や確認を怠った場合の怖さを教える・体験させる。
- マニュアルは読ませている、面白くないので忘れてしまいがちである。「ああそうか」「だからこういう手順・きまりになっているのか」ということに気付かせなければならぬ。そうして初めてみんながきちんとやってくれる。
- リスクマネジメントに関して、ある程度優先順位をつけてやっていくということは非常に良いことである。その際、作業員負担の観点も入れるべき。安全を最優先に実施する中で、作業員に過負荷がかかりすぎると、思わぬミスにつながることもある。これは見えにくい部分でもあるので、十分に見てほしい。

（３）浜岡原子力発電所の核セキュリティ対策について

- 安全対策は、理屈・科学的につめていけるが、セキュリティは、人間の心理が大きく関わるものであるのでかなり難しい。
- セキュリティについては、外部からのものと内部からのものの2つに分けて考える必要がある。外部からのものについては、日本はサイバーに対して脆弱性が残っていると考えられるため、今後取り組んでいく必要がある。内部からのものについては、ドイツの航空機墜落事故のような事例があるので、2人ルールを是非徹底してほしい。

以上